

人と活動をつなぎ、地域の未来を育てる拠点へ —まちづくりスポット恵み野の実践—

認定NPO法人まちづくりスポット恵み野

【日常の中にある市民活動の入り口】

認定NPO法人まちづくりスポット恵み野（以下、「まちスポ恵み野」）は、北海道恵庭市に2015年に設立された、まちづくりの中間支援NPO法人です。商業施設であるフレスポ恵み野内に拠点を構え、「日常の延長線上にある市民活動」を大切にしています。買い物のついでに立ち寄れる場所であることで、これまで地域活動に関わりがなかった人でも、自然な形で関わりを持つことができます。さまざまな事業を通じて、企業・市民・行政をつなぐハブとして、多様な主体が交わる場を生み出しています。

【「やってみたい」を支える伴走支援】

まちスポ恵み野では、事務所と共有の交流スペースを運営し、自主事業で活用するだけでなく、市民に貸し出すことで多様な活動の場を提供しています。単なる貸館にとどまらず、企画段階からの相談対応や団体同士のマッチング、広報支援まで行っています。初めて活動を立ち上げる人にとっての心理的ハードルを下げ、「やってみたい」という想いを具体的な実践へとつなげています。また、活動が継続・発展していくよう伴走型の支援を継続的に行っています。

【居場所と学びの支援】

近年は、孤独・孤立対策としての居場所づくりと、その担い手となる人材育成に力を入れています。子どもの生活・学習支援事業「Smileハウス」は、恵庭市の委託により実施しており、「子どもたちの第3の居場所」を提供しています。食事の提供に加え、学習サポートや体験活動を組み合わせることで、学びと生活を一体的に支えています。大学生や高校生、地域ボランティア、教員経験者など多様な大人が関わることで、子ど



Smileハウスの様子

の委託により実施しており、「子どもたちの第3の居場所」を提供しています。食事の提供に加え、学習サポートや体験活動を組み合わせることで、学びと生活を一体的に支えています。大学生や高校生、地域ボランティア、教員経験者など多様な大人が関わることで、子ど

もたちは多様な価値観に触れながら成長しています。また、子ども自身が地域のイベントにボランティアとして関わる機会も設けており、主体性や協働性を育む実践となっています。さらに、参加者だった子どもたちが高校生になり、ボランティアとして関わり続けています。Smileハウスでの経験を基に、地域の担い手として成長した姿が見られるようになっていきます。

【子育て世代の孤立を防ぐ取り組み】

子育て支援としては、保護者同士が気軽に集い、交流できる場「mama cafe（ママカフェ）」を定期的で開催しています。家庭教育支援チーム「えにわ はびナビネットワーク」と協働し、子育てに関する悩みや情報を共有できる環境を整え、孤立の防止と安心感の醸成につなげています。また、子育て中の母親たちで構成される実行委員会「つなぐme」が主体となり、子ども服やマタニティウェアのフリーマーケットを実施しています。この取り組みは、子育て世帯の経済的負担を軽減するだけでなく、市民活動への参加のきっかけづくりを同時に実現しており、支援を受ける側と担う側が循環する関係性を生み出しています。



つなぐmeのフリマの様子

【食を通じた支援とネットワークの広がり】

フードバンク事業では、さまざまな形での食料支援を実施しています。市内在住の子育て世帯や外国人技能実習生を対象に、コンビニ型の無人フードバンク施設「コミュニティフリッジ」を運営し、必要な人が必要ときに食品や日用品を受け取ることができる仕組

みを整えています。また、市内の全子育て家庭を対象にフードパントリーを開催し、食品ロス削減やフードバンク活動を自分事として感じられる機会も創出しています。さらに、地域食堂や居場所事業などを実施する団体や福祉施設などへも食品や日用品を提供し、ネットワークを広げています。企業や個人からの寄付を地域内で循環させることで、支え合いの基盤づくりを進めています。子どもや子育て世帯への支援は、福祉・教育・地域づくりが重なり合う領域であり、継続的な関係性の中でこそ効果を発揮すると考えています。

【学校と地域をつなぐ取り組み】

まちスポ恵み野は、コミュニティ・スクールと地域をつなぐハブとして、多様な主体の対話と協働を促進する役割も担っています。恵庭市教育委員会と協働事務局を担う「コミスクplus」は、各校の地域学校協働活動推進員と共に、学校と地域をつなぐ中間支援として機能し、地域と学校の連携の質の向上に寄与しています。コミスクplusが主催する「コミスクかふえ」は、各校のコミュニティ・スクール関係者が学び合う場として位置づけ、市内全体の活動の底上げを図っています。学校だけでは完結しない学びを地域と共に支えることで、「地域で子どもを育てる」土壌づくりを進めています。



コミスクかふえの様子

【花のまち恵庭を活かした体験と学び】

プレスポ恵み野の正面に広がるガーデン「めぐみの丘」は、循環型コミュニティキッチンガーデンとして「みんなのガーデンプロジェクト」が運営しています。バイオネストの設置により、落ち葉や除草した雑草を堆肥化し、ガーデン内で循環させる仕組みを取り入れ、環境に配慮した持続可能な場づくりを実践しています。また、地域住民と共に管理するコミュニティガー

デンとして、多世代が関わる活動の場にもなっています。さらに、花と野菜が共存するキッチンガーデンとして整備することで、収穫や食につながる体験を日常の中に取り入れています。

これらの取り組みは、子どもたちが土に触れ、育て、収穫する一連のプロセスを通して、自然との関わりや循環の仕組みを学ぶ環境教育の実践でもあります。季節ごとの活動は実感を伴う学びとなり、花のまち恵庭らしい体験となっています。世代を超えた交流の場としても機能しており、地域への愛着形成にもつながっています。



みんなのガーデンプロジェクトの様子

【支え合いの仕組みづくりと人材育成、今後の展望】

まちスポ恵み野は、「場づくり」「人づくり」「仕組みづくり」を一体的に進めています。今後は、特に地域の中でまちづくりを担う人材の育成により一層力を入れていきます。居場所づくりや市民活動に関わる実践の機会を通じて、多様な人が「関わる側」へと一歩踏み出せる仕組みを整えます。また、学校や地域活動への参画を通じて、子どもや若者が地域と関わりながら成長できる環境づくりを進めていきます。

誰もが活動に対しての関わる余地を持ち、支える側にも支えられる側にもなれる関係性を育むことが、持続可能な地域づくりにつながると私たちは考えています。今後も、企業・市民・行政をつなぐ拠点として、多様な主体と協働しながら、新たな価値を創出していきます。



▶まちスポ恵み野 HP
<https://machispomegumino.org/>